

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015/5/30		
所属学部	教育学部		
所属学科・専攻	小学校教員養成課程総合教育選修	学年	4年

1. 留学先について

留学先大学名	アラバマ大学		
留学先所属学部等	教育学部		
留学期間	出発日 2014/8/10	入学日 2014/8/15	修了日 2015/5/2 帰国日 2015/5/4
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート等 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
	通学時間	10分	<input type="checkbox"/> 大学の紹介・あっせん
	通学方法	無料の通学バス	
	部屋のタイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> ()人部屋 <input checked="" type="checkbox"/> 共同スペース有 () <input type="checkbox"/> 無	
食事	自炊 30 % 学食 30 % 外食 40 % その他 () * %で記入してください		
保険	海外旅行保険(名称)	OSSMA海外旅行保険	
	大学指定の保険(名称)	同上	<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他		
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)		
	成田	⇄	アトランタ ⇄ バーミンガム、アラバマ

2. 留学にかかった費用について

総費用	1126000(奨学金引いてません)	円	* おおよそでかまいません。			
出処						
自費	<input type="checkbox"/> 貯金	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円	<input type="checkbox"/> その他	円
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円	<input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/> JASSO	720000	円	<input type="checkbox"/> その他名称()	円	
その他	<input type="checkbox"/> 千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/> その他()	円		

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金	40000	円	<input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード	円	<input type="checkbox"/> その他()
留学中	<input type="checkbox"/> 海外送金	<input checked="" type="checkbox"/> キャッシング	<input type="checkbox"/> その他()			

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	9400dollars
住居にかかった費用	4920dollars
その他	

2-3. 内訳 * 外貨と日本円に換算した金額を両方記入してください

渡航費(往復)	外貨	2500dollars	円	250000
海外旅行保険	外貨	0	円	0
OSSMA	外貨	260dollars	円	26000
査証・在留許可証	外貨	0	円	0
住居	外貨	4920dollars	円	492000
食費	外貨	3200dollar	円	320000
通学に要する交通費	外貨	0	円	0
教科書、教材費	外貨	300dollar	円	30000
その他大学に支払った経費	外貨	0	円	0
光熱費	外貨	0	円	0
その他 ()	外貨		円	

3. 学業面

履修科目名 * 全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 ex.正規、聴講	単位数	単位認定の有無
1 Intro to African American history	正規	2	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
2 English writing 1for nonnative speakers	正規	2	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
3 Linguistic Approach to English grammar	正規	2	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
4 Pedagogical grammar	正規	2	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
5 World Geography	正規	2	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6 Critical Thinking	正規	2	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
7 Intro to Linguistics	正規	2	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
8 English writing 2 for nonnative speakers	正規	2	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
9 TESOL teaching writing to nonnative speakers	聴講	0	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
20			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

* 登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

基本的に千葉大学と同じでmybamaというwebsiteから履修登録していくのだが、早い者勝ちでいい時間帯のコマが埋まって行くので早めに登録すること。

3-2. 授業内容、方法に関して

千葉大学の授業と特に変わらない。どの授業でも課題が毎回出る。千葉大学に比べてICTの活用が多い。

3-3. 語学力について

行く前と帰る直前にTOEFLiBTを受けたがスコアは23あがった。特に日本で行うような英語力をあげるための勉強は行わなかったが毎回授業にまじめに取り組んだことと、常にネイティブと行動していたためだろうか。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館やジムは24時間使えとても便利である。しかし、冬休みなど長期休みになると全てが閉まり留学生にとっては帰る実家もないので困ってしまう。自分は友達の家でホームステイさせてもらって旅行を楽しんだ。

3-5. その他

4. 生活面

* 気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。書ききれない場合には別紙等に続けてください。

4-1. 住居について

住居はアパートメントスタイルだが古くてそれほど綺麗ではなかった。一応個人部屋だったが、壁が薄くとなりの声などがよく聞こえた。キッチンがあったので自炊で日本食などを作って食べていた。また、日本人が同じ棟に二人住んでおり、どちらも派遣留学生だった。

4-2. 食生活について

アメリカではよほど意識しない限り、野菜を口にすることがない。脂っこいものと炭水化物が多く、普通に生活していると太ってしまうので要注意だ。自分はMr.Chensという大学の近くのアジア食料品店に途中から通い詰め、そばなど日本食を買った。また、どの国の人も寿司が大好きなので寿司を作れると他国の友達と仲良くなるきっかけになる。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

どこでもwifiが使えるので困ることはなかった。プリペイドのような携帯電話を買ったがほぼ使わなかった。日本の携帯を持って行ってwifiだけでも十分暮らせるだろう。ただ、都市部ではgoogle mapなど使えた方が便利なので向こうでスマホを持っている留学生が多かったように思う。

4-4. 服装について

基本的におしゃれしている人はあまりいない。Tシャツにランパンツが基本的なアラバマの学生のスタイルだ。しかし、パーティーなどのイベントではこぞってみんなおしゃれをするので数枚カジュアルなドレスやシャツを持っているといいと思う。

4-5. 健康管理について

驚いたことに一度も風邪をひかなかったが、日本から今までかかったことのある全ての病気のための予防薬を持って行ったので乗り切ることができた。アメリカの病院に行くのは手間もかかるので日本から薬を持って行くことをおすすめする。

4-6. 保険、OSSMAの利用 *利用実績等をご記入ください

OSSMAを利用したが、手続きも簡単でよかった。

4-7. 課外活動について

日本語指導、日本文化を伝えるボランティアに特に力を入れた。アラバマ大学は日本語学科に力を入れており、日本文化などに興味のある学生も多いので、とてもやりがいがあった。自ら太巻き作りのセミナーのようなものを開いたりもした。そこから友人も増えたので、参加してよかったと心から思う。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

アラバマで出会った現地の友人の家族やその家族の友人などに関わるが多かった。大学生活とは違った家庭の様子や地域の人々との交流を通してその街についての話を伺うことができとても有意義だった。

4-9. 日本から持参してよかったもの

常備薬、日本食、携帯の充電器のスペア、クレジットカード会社の電話番号一覧、化粧品

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

お茶のパック、暑いから飲まなかった。

4-11. 現地での対人関係について(習慣の違い、マナーなど)

アメリカ南部の人達は本当にフレンドリーであたたかい。アジア人に対する差別も全くなく、留学するには素晴らしい環境なのではないかと思う。初対面で会話することも普通で人と人の壁が日本に比べてない。バスの中で大合唱がはじまったり、食堂のおばさんが歌っていたり雰囲気ととにかく自由にみんなあまり人の目線などを気にしていないので大変生きやすい。目があって微笑みかけるのは普通であるように思う。またこれはアメリカ全土のマナーであろうが、レストランなどで食事したあとは必ずチップを払う(商品の25パーセント)ことが常識だ。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

Getlinburg, テネシー 12月中旬 費用はホームステイ先の方が払ってくださったので0円
ニューヨーク 12月末から1月初旬 タイムズスクエアでの年越し 60000円ほど
オレンジビーチ、アラバマ 3月 50000円ほど 現地の友人の運転で四時間ほど

その他

5. 報告

5-1. 留学先大学について

アラバマ大学は南部の名門大学でアメリカンフットボールが強いことからアメリカ全土の人がその名を知っている。ROLL TIDEというアメフトの応援フレーズはアメフトファン、またアラバマの学生の挨拶になるほどだ。南部ということで白人、黒人がいたような割合で在学しており、中国からの学生もかなり多い。まさに人種のサラダボウルといった感じだ。日本で正規の授業をとっている日本人はかなり少ない。ELIという語学学校には私大からの日本人学生があふれていてほしい短期留学なのであまり関わる機会がない。日本語学科の教授が日本語教育に大変力を入れており、日本語や日本文化に興味を持つ学生も多い。キャンパスはとて広く自然がいっぱいで勉強も運動ものびのびと楽しめる。人も南部の気候のようにあたたかく大変フレンドリーだ。

5-2. 留学中の様子

アラバマ大学のTOEFLIBTの最低条件が71。このレベルだと授業についていくのに大変苦労する。最初は何を言っているか理解することすら危うい。特に現地学生とのdiscussionがとにかく難しい。派遣留学生は基本的に現地の学生と授業を受けるので留学生だからといって特別扱いなどはあまりない。今考えるとこの71というのは頑張れば英語力がそれなりまでのびるだろうという見込みの最低ラインだったのだろうと思う。最初はともかく言語レベルが周りより劣っていることをカバーするため必死に立ち回った。例えば、教授に毎回質問をしたり、自分が留学生であることを伝えたりする。英語力が乏しい分相手に自分という人間を知ってもらうために日本語の倍努力した。最初は自分と同じレベルの留学生と仲良くしていることが多かった。主にブラジルやイタリアからの留学生だ。英語に疲れたときは日本からの派遣留学生と愚痴を言い合うこともあった。アメリカ人は主に日本に興味のある人や日本語を学習している人だと最初は友達になりやすいと思う。言葉足らずでも共通の話題などがあるので会話が盛り上がりやすい。日本語ボランティアでそのような友人を多く作り、暇な時間なども積極的に自分から誘って時間を過ごした。食事、勉強、映画を見るなど様々なことを一緒にした。そのおかげで一生活きあって行くであろう友人も数人でき、ホームステイなどもさせてもらった。最初は多くの人と付き合い、時間がたつにつれてやはり外国人でも気の合う、合わないもあるので数人と深く関わるようになった。

5-3. 留学希望者へのアドバイス

留学の目的は色々あると思う。自分の目的は英語力の向上、将来英語教員になるための武器をたくさん身につけて帰国するということであった。なのでとにかくネイティブと時間を過ごすようにしていたし、授業なども一生懸命取り組んだ。将来教師になる上で役立ちそうな授業を選んだつもりだ。アラバマ大学には学部生のとれる研究法の授業などはあまりないので研究者を目指しているような人には向かないかもしれないが、将来英語を使って仕事をしたいという人や英語力を向上させたい、日本文化の良さを海外に広めて行きたいというような志を持つ人には心からおすすめできる。とにかく、人が温かいので過ごしやすいのがよいところだ。もし留学に少しでも興味がある人がいるならば、迷わずその一歩を踏み出してほしいと心から思う。自分は短期プログラムでもアラバマへ留学したのだが、そのときは全く違っていた。短期はどちらかといえばモチベーション作りのきっかけという感じだ。英語が話せない悔しさを感じたり、多文化に触れたりして次の大きな挑戦への足がかりになるといったところだろうか。しかし、派遣留学では当然現地の人々との深い関わり合いも生まれ、その土地の人々のアイデンティティや文化を自分自身の肌身で感じ、自分の価値観の一つにすらできる。そして、英語力も語学学校に通うのに比べると格段にのびる。このようなメリットからもアラバマ大学への派遣留学は心からおすすめできる。

5-4. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がたった部分、不安に思うことなどなんでも。

今回千葉大学の派遣留学制度を通じ、アメリカアラバマ大学への留学という大きな挑戦において大きな成功を収めることができたと感じている。これも留学センターの大藤さんと武田さんの心強いサポートがあったからだ。企業などを利用していたらこれほどまで安心して留学のサポートをお願いできなかったかもしれないし、なにより大学から出していただいた奨学金などもありコストをおさえられたのがとても良かった。また、事前に留学先での目標ややりたいことをプレゼンするという課題があったがあれはとても有意義だったと感じる。なぜなら、留学生活で日本人留学生同士で過ごし、気づいたら留学が終わってしまったという事例も少なくはないからだ。この派遣留学という制度はTOEFLを受けなければならないという最初の壁のおかげで、どの学生も必死に勉強し、面接などを経てやっと留学が決まるという制度から自分のやりたいことを見直す時間なども十分に与えられている。そういった意味でこのプログラムは大変質が良く、1人1人の学生の成長をしっかりと考慮しているので、とてもすばらしいと感じたし、もっと多くの千葉大生にこの制度を利用してほしい。他の大学も闇雲に学生を派遣するのではなく、このようにしっかりと準備段階を経た留学プログラムを取り入れて行くべきだと思う。今後は留学前と変わらず、英語教員として、1人でも多くの生徒が英語を好きになり、コミュニケーション

6-5. その他の質問、意見、相談などあれば自由に書いてください。

本当にありがとうございました。

お疲れ様でした

国際教育センター海外留学支援室 2014.1作成版